

民報 藤島

2022年 6月 5日

第 1352号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい
（月200円程度）
5月 39人 28,803円
4月 45人 45,693円

日本国内では抜群の実績 つるおかランドバンク

『土地は誰のものか』

空き家問題では、岩波新書の最新刊『土地は誰のものか』（五十嵐敬喜・著）が注目されています。

その中で、つるおかランドバンクが、日本国内では抜群の実績をあげていて、国土交通省が日本の「モデル」として紹介していること述べられています。鶴岡では、「専門家や不動産業者がコーディネート役となって、

周辺地主と協力しながら、土地の形状を整えて道路を広げるなど、

建替え可能なように整備する作業を行い、実際に成功例を生み出した。

続いて、相談、空き家バンク、空き家管理、解体などについても取り組むようになり、相応の実績を上げている。」と評価しています。

本書では、土地を人々が共同利用する「現代総有」という考え方が示されています。

住基ネットを利用

「空き家」問題の法制度では、2014年に一定の条件下に取り壊しを行政が代行できる「空き家対策法」、

18年には不明土地を利用できる「不明土地法」、土地全体にかかわる「土地基本法」も20年に改正されました。

さらに今年5月の「地方権一括法」では、住基ネットを利用して、空き家の所有者の現住所を検索できるようにになりました。

「民報藤島」に14回にわたって掲載した「東栄小獅子踊りものがたり」の吉野文夫先生が5月30日、逝去されました（享年88歳）。謹んでご冥福をお祈りします。

東栄小獅子踊りものがたり① 父親が燃えた日

元東栄小教諭・吉野文夫

平成4年3月、卒業式の懇親会の席で、担任として「…右腕が悪化（職業病の肘腱鞘炎）」し、大変迷惑をかけました。これからは教師をやめるか、特殊学級にでもと



に「子に語り継がれる夢の場をつくろう」を記載。

「あの先生はよくやったけど、あの先生しねっけでは困る。よい事は伝統的に続けなければ。それには、地域の人が中心になって本気でやるならば」。

そこに吉田教頭も論議に参加し具体化。新年度から取り組むべく明日、集まることになりました。（つづく）

村の四季④

鈴木重雄（八色木）

■藁仕事

冬の農作業は藁仕事から始まる。

昔から藁は、人々の暮らしの中に深く関わってきた。

入れ物、履き物、農作業にかかせない藁や農作業用具に使われてきた。

稲作りは、米を生産するだけでなく、農村生活を支えてきた文化でもある。

男たちは、米を入れる俵（玄米4斗入、60kg、俵の両側をおさえる棧俵、肥俵、草履や草鞋、雪囲いや風除けに使う雪簀、縄などを作らなければならぬ。

米は現金に換えて生活資金にするが、藁はいろいろな面で活用される貴重な素材である。

若者たちは、友だちの家に材料を持って集まり、作業をしながら天下国家を論じていた。藁仕事には一日のノ

ルマがあったが、別に拘束されることはなかった。

各村とも大体同じで基準があった。

八栄島地区には基準を示す資料がないので、大正9年余目町農会が決めた作業基準があったので参考にした。

縄ないは大縄12把（1把30尋、俵紐縄400尋、米俵（2つ編）12俵、肥俵12俵。

1尋は、両手を広げた長さである。

家の土間や稲倉の庭は、藁から出た屑（こもじ）を山のように積み上げていく。

こもじは布団に詰めて、敷布団に使った。詰めたての敷布団は、体の部分がかくぼみ、藁の香りと温もりの感触は、今でも身に染みみている。

私は藁の中で生まれ、いづれこで育ち、こもじ布団の中で、昔話を聞きながら眠った。



稲刈り時は子どもも田んぼで（昭和25年頃）

結婚新生活に60万円の補助金 鶴岡市の結婚新生活支援事業

鶴岡市では今年度、新婚生活をはじめめる2人に、家賃や引越費用等に、最大60万円を補助し応援します。

夫婦ともに39歳以下
所得400万円未満

年齢が、夫婦ともに婚姻日39歳以下であること、夫婦の合計所得（手取額）が、400万円未満であることなどが要件です。

夫婦年収で540万円未満に相当し、奨学金の年間返済額は、所得額から控除されます。

補助金額は、夫婦ともに29歳以下の世帯が上限60万円まで、同39歳以下の世帯が上限30万円までです。

対象経費は、住宅賃貸費用や引越費用などです。

受付は、市役所5階「地域振興課」・各地域庁舎「総務企画課」まで。

内閣府の事業で要件緩和、嵩上げ

この「結婚新生活支援事業」は、国の内閣府「地域少子化対策重点推進交付金」のメニューの一つで、2016年度から事業を開始し、21年度から年齢と年収要件の緩和、補助率の嵩上げが実施されました。

少子化の主な原因は、未婚化・晩婚化と、出生率の低下で、特に若い世代での未婚率の上昇や、初婚年齢の上昇の影響が大きいと言われていています。

若い世代で「いずれ結婚するつもり」と答える人の割合は、男女ともに9割程度で推移しています。



しかし、「結婚資金が足りない」ことを理由に、結婚に踏み切れない人が男性3割弱、女性2割弱いるとのこと。

このことから。結婚に伴う経済的負担の軽減を図り、若い世代の結婚の希望をかなえることが重要であるーとされています。

ひと

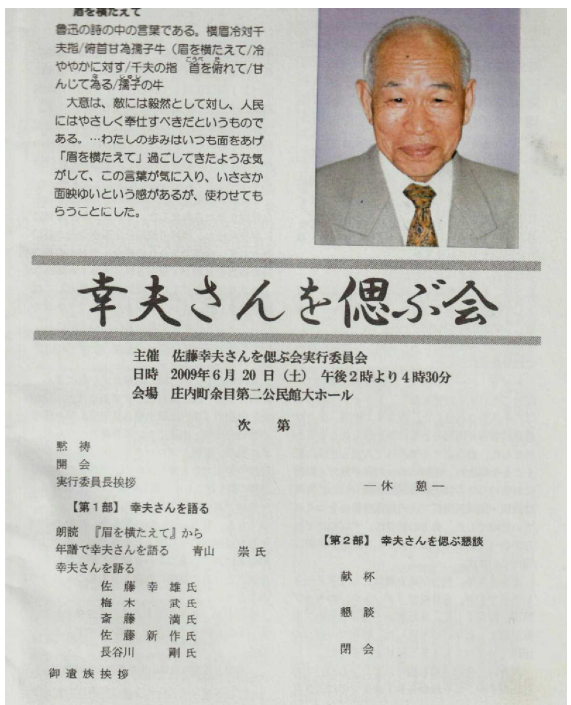
日下部勇一（庄内町榎島）

波瀾（乱）万丈の人生

青山 崇

■「私の父親」としての幸夫さん①

『幸夫さんを偲ぶ』文集に、勇一が寄稿したものを紹介する。



佐藤幸夫さんを偲ぶ会の案内（2009年6月）

☆ ☆ 私の家に月1回ほど集まって、最上川砂利

寄稿文の前に一言。勇一議員の初当選を誰よりも喜んだのは、佐藤幸夫さん（2008年逝去83歳）であろう。1955年（昭和30）、ご自身も31歳でトップ当選し、初の共産党余目町議、いや庄内初の共産党議員であった。勇一議員の初当選にあたって、分けて掲載する。冒頭は既述したので割愛させて戴く。

採集や、道路等の工事の話し合いをしていた。そのとき母は「アカハタ」を見ていた。

共産党の幸夫さんや友喜さんは、失対（失業対策事業）の人々の面倒をよくみていた。1965年、国の事業になったと、幸夫さんからよく聞かされた。

私は、幸夫さんの生き方やその家庭を鏡にして育ち、私の生活全般の相談役で「わたしの父親」だった。私は、幸夫さんの指導を受けながら、次の



簡裁に行ってきた

山形の簡易裁判所から、5月26日午前11時に出勤せよ、との命令が届いたので、その日に行ってきた。

▲事故は去年の9月2日、バイクで尺八の稽古に行く9時15分頃に起きたんだ。鶴岡市にある三條物産の車が、丁字路で一時停止しないで、直進している俺の前輪に「追突」し、俺は吹っ飛んだのだ。

▲バイクは、前輪がパンクし両側のミラーと前籠がダメになったが、俺は吹っ飛ばされたのに、神仏の御加護により俺の体にはかすり傷の一つもなかったのだ。

▲追突してきた車がヨ。どこが傷か分からない傷を治すのに金が掛るから、俺に金を出せ。その金額を決めるために車の持ち主・山形にある三條物産の本社が、山形地方簡易裁判所に

教えをもとに議会活動に徹してきた。

①町民要求は、すべて憲法・地方自治法・町条例と規則に関係するので、よく勉強すること。

②町財政に強い議員になること。

③清潔で公平、疑惑や不正のない町政を目指すこと。

☆ ☆ 勇一は幸夫さんの教えを貫き、議会で数々の問題を追求し、マスコミで報道されたことも多々あった。（つづく）

訴えを出した結果が、俺が被告にされた訳。

▲退職してから乗ったのだから20年になるバイク歴。年寄りがトコトコ走るんだから・自分さえ気を付けていれば、と任意保険に入っていたいなかったんだ。保険に入っていれば被告にはならず済んだものだが、お陰で裁判というものを経験させてもらった次第だ。

▲出頭命令には訴状と、それに対する被告の「言い分」や示談に対する考え方を書いて出せと用紙が入っていて、出頭日の1週間前まで出すように・とある。俺は「言い分」に「いいぶん」とカナをふって10日前に届けた。

▲時間に遅れてはならじと、早くに家をでたものだから、10時ちょっと過ぎに裁判所についた。暇つぶしにゲームをしていたら、若者が俺の前を歩き来するんだツケ。以下次号

（石川）